

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	社会福祉基礎	2	2	ライフデザイン系列

使用教科書	副教材等
社会福祉基礎(実教出版)	社会福祉基礎学習ノート(実教出版)

<p>科目の目標</p> <p>社会福祉の理念や人間の尊厳と自立、生活を支える社会保障制度などについて理解し、社会福祉の向上と福祉社会の発展を担うために必要な資質・能力を育成する。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、それらに係る技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む実践的な態度を養う。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中における生徒の反応や授業への取り組み ・定期テスト ・ワークシートと提出物の状況 ・ワークシートの取り組み

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
4 5	第1編 社会福祉の理念と 意義	第1章 生活と福祉	家族の機能と役割、ライフスタイルの変容、健康の考え方や疾病構造の変化が理解できる。	◎	○	○	
		第2章 社会福祉の理念	地域共生社会、日本国憲法や社会福祉の理念やあり方について理解できる。	◎		○	
		第3章 人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	障害者の権利に関する条約、自立の意味や自己決定の重要性、自立支援の必要性について理解できる。	◎		○	
6 7 9 10 11	第2編 社会福祉の歴史と 展望	第1章 諸外国における社会福祉	スウェーデンやデンマークにおける社会福祉思想、アジア地域における福祉の状況、各国の現状や課題を理解できる。	○	◎	○	
		第2章 日本における社会福祉	日本における社会福祉思想の発展、介護保険制度と障害者総合支援制度、生活困窮者自立支援制度ができた社会的背景を理解できる。	○	◎	○	
		第1章 社会保障制度の意義と役割	社会保険・公的扶助・社会手当・公衆衛生、日本の社会保障の各制度意義や概要について理解できる。	◎		○	
		第2章 子ども家庭福祉	児童及び家庭を支える社会福祉サービスの子育て支援、児童の虐待など支援が必要な課題について理解できる。	○	◎	○	
		第3章 障害者福祉	障害者を支える社会福祉サービスについて、障害者総合支援制度と関連付け、障害の概念・法的定義・実態を理解できる。	○	◎	○	
		第4章 高齢者福祉と介護保険制度	高齢者を支える社会福祉サービスについて、介護保険制度と関連付けて理解できる。	◎		○	
12 1 2 3	第3編 生活を支える社会 福祉・社会保障 制度	第5章 生活支援のための公的扶助	生活保護制度、公的扶助、生活困窮者自立支援制度、保護の原則・種類・動向及び現状について考察できる。	○	◎	○	
		第6章 国民の生活を支える社会保険制度	医療保険制度や公的年金制度などの保険や医療の諸制度、育児・介護休業制度も含めた雇用関係について理解できる。	◎		○	
		第4編 人間関係と コミュニケーション	第1章 コミュニケーションの基礎	人間関係を構築するための技法、基礎的な技法の言語的・非言語的コミュニケーションの役割、意義を考察できる。	○	◎	○
		第2章 支援における人間関係の形成	対人援助に必要な人間の理解、共感やラポール、傾聴や受容、自己覚知や他者理解について理解できる。	◎		○	
		第3章 社会福祉における支援活動の概要	社会福祉援助活動の意義や役割、個別的な援助、集団及び家族への援助、地域を基盤とした援助を理解できる。	◎		○	
		第5編 地域福祉の進展と 多様な社会的支援 制度	第1章 多様な社会的支援制度	医療関係施設、特別支援教育、司法と福祉の連携、成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解できる。	◎		○
第2章 地域福祉の進展と地域の将来	地域包括ケアシステム、生活支援コーディネーター、災害に備えた街づくりなど地域福祉の役割、意義を考察できる。	○	◎	○			

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	生活支援技術	3	2	ライフデザイン系列

使用教科書	副教材等
生活支援技術（実教出版）	なし

科目の目標 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体系的な学習活動を行うなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力が身に付く。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中における生徒の反応や授業への取り組みの様子 ・定期テスト・小テスト ・ワークシートと提出物の状況 ・ワークシートの取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	第1編 生活支援の理解	第1章 生活の理解	各ライフステージの課題や老年期の特長や生活について理解する。	○	◎	○
		第2章 生活支援の考え方	生活支援について尊厳や自立支援を踏まえ理解する。 介護予防、福祉用具、感染症について理解し、技術を身に付ける。	◎	○	○
		第3章 生活支援と介護過程	介護過程の展開について理解する。 ICFを理解し、活用することができる。	◎		○
		第4章 多職種協働と 他の専門職の役割	生活支援における他職種連携について理解し課題を考察できる。	○	◎	○
		第2編 自立に向けた 生活支援	第1章 居住環境の整備	快適で安全な居住環境を整備するための基本事項を理解する。 事例を通し、高齢者の居住環境の課題を見つけ考察する。	◎	
6 7 9 10	第2編 自立に向けた 生活支援	第2章 家事の支援	家事支援についての基本的な知識を理解し、技術を身に付ける。 家事支援を行う上で、高齢者や障害者の課題について考察する。	◎		○
		第3章 身じたくの支援	身じたくの支援について理解し、事例を通し課題を考察する。	○	◎	○
		第4章 移動の支援	移動の支援について理解し、事例を通し課題を考察する。	○	◎	○
		第5章 食事の支援	食事の支援について理解し、事例を通し課題を考察する。	○	◎	○
		第6章 入浴・清潔保持の支援	入浴・清潔保持の支援について理解し、事例を通し課題を考察する。	○	◎	○
		第7章 排泄の支援	食事の支援について理解し、事例を通し課題を考察する。	○	◎	○
		第8章 睡眠・休息の支援	睡眠・休息について理解する。	◎		○
		第9章 レクリエーションの支援	レクリエーションについて理解し、技術を身に付ける。	◎	○	○
		11	第3編 緊急時・災害時 の支援	第1章 緊急時の支援	緊急時の対応方法について理解し技術を身に付ける。	◎
第2章 災害時の支援	災害時の多職種連携について理解し課題を考察できる。			◎		○
12	第4編 終末期の支援	第1章 終末期の支援	終末期について理解し、介護従事者の役割について課題を考察でき	◎	○	○
		第2章 死を迎える人への 支援と留意点	死を迎える人の支援方法を理解し、死後のケアに関する課題を考察する。	◎	○	○
1 2 3	第5編 医療的ケア	第1章 医療的ケアの理解	医療的ケアについて理解し、安全な療養生活や健康状態の把握についての課題を発見し考察することができる。	○	◎	○
		第2章 高齢者及び障害者の 喀痰吸引	喀痰吸引について理解し、技術を身に付ける。	◎		○
		第3章 高齢者及び障害者の 経管栄養	経管栄養の基礎知識を理解し、技術を身に付ける。 事例を通し、経管栄養を実施する上での課題を発見し、考察することができる。	◎		○

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	コミュニケーション技術	2	3	ライフデザイン系列選択・自由選択B群

使用教科書	副教材等
コミュニケーション技術（実教出版）	

<p>科目の目標</p> <p>コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション、多職種との連携などについて、実践的・体験的な学習活動を行い、福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割について理解し、関連する技術を身に付ける。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中における生徒の反応や授業への取り組みの様子 ・定期テスト・小テスト ・ワークシートと提出物の状況 ・ワークシートの取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	第1編 介護における コミュニケーション	第1章 コミュニケーションの 意義と役割	人間を理解する上で大切な他者理解、自己理解、自己覚知等の必要性とあり方を理解する。 コミュニケーションをとる意味を理解し、基本的な態度を身に付ける。	◎		○
		第2章 コミュニケーションの 基本技術	言語的、非言語的コミュニケーションの意義・役割や傾聴や受容について理解する。	◎		○
			対人援助に必要な基本的なコミュニケーションの技術を事例を通して実践し技術を身に付ける。 実践を通し、基本的なコミュニケーションについて考察し、表現することができる。	○	◎	○
		第3章 援助の技法と コミュニケーション	個別的な援助、集団援助について理解する。 集団から受ける影響について考察し、集団援助技術を身に付ける。	◎		○
9 10 11 12	第2編 サービス利用者や 家族とのコミュニ ケーション	第1章 利用者や家族との関係 づくり	サービス利用者や家族の意向を調整する技法や相談・助言・指導する技法について理解する。 サービス利用者と家族を含むコミュニケーションの在り方を、事例を通し考察することができる。	◎		○
		第2章 サービス利用者に応じた コミュニケーション	加齢による心身の変化を理解し、高齢者に合わせたコミュニケーションの必要性を理解する。	○	◎	○
			障害がもたらす二次障害を理解し、それらがコミュニケーションに及ぼす影響を考察することができる。 視覚障害、聴覚障害、言語障害、運動機能障害、知的障害、認知症のある人の理解を深め、コミュニケーション方法を身に付ける。	○	◎	○
		◎	○	○		
1 2 3	第3編 介護におけるチーム コミュニケーション	第1章 記録	記録の種類、記録の方法について理解する。	◎		○
			客観的な記録により利用者理解に繋がることを理解し、記録をとる技術や記録によって振り返りをする方法を身に付ける。	◎	○	○
			情報の保護について考察できる。		◎	○
		第2章 チームによる連携	チームのコミュニケーションの重要性や記録によつての情報の共有について理解する。	◎	○	○
第3章 スーパービジョンの技法	介護従事者として自身の向上と成長させる方法としてのスーパービジョンを理解する。 スーパービジョンの方法について演習を通し身に付ける。	◎		○		

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	こころとからだの理解	2	3	ライフデザイン系列・自由選択G群

使用教科書	副教材等
こころとからだの理解（実教出版）	

科目の目標 人間の理解に必要な心身の構造や機能、生活支援に必要なこころとからだの関係、認知症と障害などについて福祉を実践する際の根拠を理解するとともに、生活支援を行うための必要な資質、能力を育てる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自立生活の支援に必要なこころとからだに関連する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築をめざし、自ら学びこころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中における生徒の反応や授業への取り組みの様子 ・定期テスト・小テスト ・ワークシートと提出物の状況

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	第1編 こころとからだの 基礎的理解	第1章 こころの理解	人間の基本的欲求や自己概念と尊厳、思考や感情、学習、記憶、適応について理解する。	◎		○
		第2章 からだのしくみの理解	健康や動機づけを高める方法や生きがいに関する課題やマズローの欲求段階、防衛機制について考察できる。 人間の生命維持と恒常性のしくみ、人体構造や機能、人体の名称等について理解する。 からだについて基礎的理解を通し、関連する技術を身に付け健康状態について考察できる。	○	◎	○
7 9	第2編 生活支援に必要な こころとからだの しくみの理解	第1章 生活動作に関するこころ とからだのしくみ	日常生活すべてに関する行為について理解する。 日常生活すべてに関連する行為について課題を発見し解決できる。	◎		○
		第2章 生活場面の変化に関する こころとからだのしくみ	感染症や緊急時の対応、終末期について理解する。 終末期についての課題を発見し、考察することができる。	◎		○
10	第3編 発達と老化の理解	第1章 人間の成長と発達	人間の成長と発達について理解し、発達についてそれぞれの段階での課題について考察できる。	○	◎	○
		第2章 老年期の理解と日常生活	老年期の心身の変化について理解し、身体的・心理的・社会的に影響する課題を考察できる。	○	◎	○
		第3章 高齢者と健康	高齢者に多い疾病と症状について理解する。	◎		○
11 12	第4編 認知症の理解	第1章 認知症をとりまく状況	認知症の歴史と取り巻く社会環境について理解し、現状と施策について考察できる。	○	◎	○
		第2章 認知症の基礎的理解	認知症の症状、診断方法、原因となる主な病気について理解し予防について考察することができる。	○	◎	○
		第3章 認知症に伴う心身の 変化と日常生活	認知症の特長な症状について理解する。 認知症に伴う日常生活への影響を考察することができる。	◎		○
		第4章 認知症と地域サポート	地域におけるサポート体制について理解する。 認知症の人が地域で安心して暮らすための課題や家族に対する支援について考察することができる。	◎		○
1 2	第5編 障害の理解	第1章 障害の基礎的理解	障害の定義、ノーマライゼーション、ICF等について理解する。	◎		○
		第2章 生活機能障害の理解	身体障害、精神障害、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、難病について理解し、日常生活の課題が考察できる。	○	◎	○
		第3章 障害に伴う心身の 変化と日常生活	障害の受容について理解する。 障害が及ぼす心理的影響に関して考察することができる。	○		◎
		第4章 障害と地域生活支援	障害のある人の地域サポート体制について理解する。 障害のある人の地域におけるサポートや家族への支援について課題を発見し、考察することができる。	○		◎

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	介護総合演習	3	3	ライフデザイン系列選択

使用教科書	副教材等
なし	

科目の目標 介護演習や事例研究などの学習を通し、福祉に関する知識と技術を統合し、実践的・体系的な学習活動を行い課題解決に必要な資質・能力を育成する。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
② 思考・判断・表現	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法 ・授業中における生徒の反応や授業への取り組みの様子 ・定期テスト・小テスト ・ワークシートと提出物の状況 ・ワークシートの取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	介護演習	施設実習オリエンテーション	個人情報やリスクマネジメントについて理解し、施設実習の意義、役割について考察することができる。	○	◎	○
			施設実習の目標や内容に関わる問題を発見し、自己の課題を設定する。		◎	○
6 7	施設実習オリエンテーション レクリエーションの実践	施設実習オリエンテーション レクリエーションの実践	基礎的な介護技術やレクリエーションについて理解する。	◎		○
			高齢者の心身の変化について課題を見つけ、適切なレクリエーションの計画書を作成し、実践・考察することができる。		◎	○
9 10	事例研究	施設実習事例研究	施設実習の体験から事例をあげ、サービス利用者の心理や生活状態について理解する。	◎		○
			施設実習や福祉活動から得た体験に基づいて課題を発見し、考察することができる。		◎	○
12 1 2 3	調査・研究	施設実習報告会	施設実習報告会を通して福祉の各分野について理解し技術を身に付ける。	◎	○	○
			施設実習報告会を通して、課題に対して職業人に求められる倫理観や科学的な根拠に基づいて解決し、表現することができる。	○	◎	○

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	生活支援技術	3	3	ライフデザイン系列(福祉専攻)

使用教科書	副教材等
生活支援技術(実教出版)	なし

科目の目標 医療的ケアやサービス利用者主体の生活支援の在り方を理解するとともに関連する技術を身に付け、継続的で豊かな生活の支援に必要な資質・能力を育成する。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、それらに係る技術を身につけている。
② 思考・判断・表現	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む実践的な態度を養う。

評価方法 ・授業中における生徒の反応や授業への取り組み ・定期テストと実技テスト ・ワークシートと提出物の状況 ・ワークシートの取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第1編 生活支援の理解	第1章 生活の理解	生活の構成要素、生活活動の種類、生活空間と生活時間、生活の個別性と多様性について理解できる。	◎		○
		第2章 生活支援の考え方	潜在的能力を引き出す支援、介護従事者として身に付けるべき基本的な考え方について理解できる。	◎	○	○
		第3章 生活支援と介護過程	サービス利用者の生活歴や背景の尊重、個性性と多様性に応じた自立した生活の支援について考察できる。	○	◎	○
		第4章 多職種協働と他の専門職の役割	サービス利用者にとってのよりよい介護、他の職種が協働してサービスを提供する意義や目的について理解できる。	○	◎	○
6	第2編 自立に向けた生活支援	第1章 居住環境の整備	施設による生活の場の違い、ユニットケアなどの環境や整備に関する工夫、プライバシーの確保について理解できる。	○	◎	○
		第2章 家事の支援	家事を行う意欲を支える支援方法、調理、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営・家計の管理について理解できる。	◎		○
		第3章 身じたくの支援	衣服の着脱の意義や目的、身じたくへの意欲や装いの楽しみ、整容の支援方法と留意点について理解できる。	○	◎	○
		第4章 移動の支援	体位の保持や体位変換、介護ロボットの活用方法、歩行、車いすなどの福祉用具についての技術を身につける。	◎		○
		第5章 食事の支援	食事における安全面への配慮、自立に向けた食事に関する基礎的な支援方法と留意点について理解できる。	◎	○	○
		第6章 入浴・清潔保持の支援	安全な浴室環境の整備、プライバシーに配慮した安全な入浴、清潔保持、福祉用具の活用方法について理解できる。	◎	○	○
		第7章 排泄の支援	安心な排泄行為を支える支援方法、ポータブルトイレやおむつ、障害が排泄に及ぼす影響について考察できる。	◎	○	○
		第8章 睡眠・休養の支援	健康を保持するための睡眠・休養の重要性、安眠を促す環境を整える支援と留意点について理解できる。	◎		○
		第9章 レクリエーションの支援	生きがいや自己実現、サービス利用者の状態や状況を考慮したレクリエーション活動のあり方について考察できる。	○	◎	○
12	第3編 緊急時・災害時の支援	第1章 緊急時の支援	日常生活における危険の予防、緊急事態時の対応方法、心肺蘇生法や止血法などの応急処置の技術を身につける。	◎		○
		第2章 災害時の支援	災害の種類、被災者の身体状況及び心理状態の把握、災害時の情報伝達や安全確保、多職種協働について理解できる。	◎	○	○
1	第4編 終末期の支援	第1章 終末期の支援	サービス利用者の身体状況や精神状態の変化、家族への適切な対応方法、多職種との連携について理解できる。	◎		○
		第2章 死を迎える人への支援と留意点	個性性の尊重、最期までその人らしく生きるための支援、グリーフケアについて理解できる。	◎		○
2	第5編 医療的ケア	第1章 医療的ケアの理解	医療的ケアの概要、倫理と法規、介護従事者の役割、危機管理とヒヤリハット・アクシデントについて考察できる。	○	◎	○
		第2章 高齢者および障害者の喀痰吸引	呼吸器系の構造と機能、基礎的知識と必要物品、喀痰吸引の留意点、実施手順についての技術を身につける。	◎		○
		第3章 高齢者および障害者の経管栄養	消化器系の構造と機能、基礎的知識と必要物品、経管栄養の留意点、実施手順についての技術を身につける。	◎		○

教科	科目	単位数	学年	集団
福祉	社会福祉探究	2	3	総合的な探究の時間

使用教科書	副教材等
社会福祉基礎	

科目の目標

社会の様々な問題を課題とし社会の幸せを考え、社会福祉基礎で学んだ知識を深め課題を解決する力を養い、地域へ貢献する態度を育成する。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	社会福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
② 思考・判断・表現	社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価方法

- ・授業中における生徒の反応や授業への取り組みの様子
- ・定期テスト・小テスト
- ・ワークシートと提出物の状況
- ・ワークシートの取り組み

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	第1編 社会福祉の理念と意義	第1章 生活と福祉 第2章 社会福祉の理念 第3章 人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	社会福祉の意義や尊厳の保持、自立支援について理解し、職業人に求められる倫理観を身に付ける。	○	◎	○
6	第2編 社会福祉の歴史と次代の展望	第1章 諸外国における社会福祉 第2章 日本における社会福祉	諸外国の社会福祉の発展を学び、日本の社会福祉の発展と今後について考えを深める。	◎	○	○
7 9 10 11	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	第1章 社会保障制度の意義と役割 第2章 子ども家庭福祉 第3章 障害者福祉 第4章 高齢者と介護保険制度 第5章 生活支援のための公的扶助 第6章 国民の生活を支える社会保険制度	社会保障、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、公的扶助について各制度の現状と課題について探究し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて解決する力を養う。	○	◎	○
12 1 2 3	第4編 人間関係とコミュニケーション	第1章 コミュニケーションの基礎 第2章 支援における人間関係の形成 第3章 社会福祉における支援活動の概要	施設実習を通し社会福祉援助活動の意義や役割を理解し、対人援助についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて科学的な根拠に基づき解決する力を養う。	○	◎	○